

3類型	鈹工業品	通巻番号	3-20-092
地域資源名	秩父銘仙、秩父ほぐし捺染	認定日	平成21年3月19日
地域	埼玉県秩父市	所管省庁	経済産業省

**事業名：秩父銘仙の技術を活かした新市場開拓事業
—秩父柿渋HOGUSHI・柿渋ORIの商品開発—**

会社名：新啓織物

所在地：埼玉県秩父市中宮地37-9

連絡先：TEL：0494-22-3140
FAX：0494-22-3140

H P：http://arakei.com

事業概要(新たな活用の視点)

秩父銘仙は、ほぐし捺染による斬新な色や図柄が特徴で、大正から昭和初期にかけて、当時の若者を中心にカジュアルな着物として一世を風靡した。しかし昨今着物の需要が減少し、現在では観光の一要素としての意味合いが強くなっている。

今回の事業では、秩父銘仙という織物の可能性を広げるために、40代以上のホワイトカラーの男性をターゲットとして、秩父銘仙独特の伝統的な技術や図柄を活かした、男性用のシャツ・ハンカチなどの開発を行い、クールビズ市場の開拓を目指していく。



【ほぐし捺染の製造工程】



【秩父銘仙(藍染)】

売れる商品づくり(競争力、市場性、販路)

◆競争力

「米沢織」「阿波しじら織」「香川保多織」「播州織」などが、オフィス向けクールビズシャツを開発している。本商品「柿渋HOGUSHI・柿渋ORI」は、柿渋ほぐし染めの織物として、汗や加齢臭対策という機能性の高い商品となっており、他産地商品との差別化が可能である。

◆市場性

クールビズ市場は、平成17年より官公庁を中心に実施され、現在では地球温暖化対策への関心の高さもあり、夏季のノーネクタイ・ノージャケットスタイルが、公的な場面で定着してきた。市場規模も年々拡大傾向にあるため、販売の拡大が期待できる。

◆販路

高級通販雑誌、航空機の機内誌など、富裕購読層へリーチしやすい媒体を活用し、デパートなどで父の日ギフトなどの需要を喚起する。また同時に、埼玉県の伝統産業を推奨している、埼玉県や秩父市などの自治体職員に対してキャンペーンを実施して、話題性を高めていくことで、地元のビジネスマンに対して需要の喚起を図る。



【商品イメージ】

地域資源における関係事業者との連携

織物産地という地域特性を活かし、製造については、図案、型、染め、機屋の分業体制を、販売は旧織物問屋などを活用する。これにより秩父銘仙の知名度を高め、技術伝承と後継者育成といった、産地全体の活性化が期待できる。

また秩父銘仙館における、観光を兼ねたテーラーメイドシャツなどの採寸や、工場見学といった産地ものづくりツアーも開催し、地元でも「柿渋HOGUSHI・柿渋ORI」商品の販売を行う。